

献 辞

小野一一郎先生は、1988年10月10日に満63歳の誕生日をお迎えになり、1989年3月末日をもって本学をご退官になることとなりました。

先生は、1949年に京都大学経済学部をご卒業後、住友銀行、大阪市立大学での勤務を経て、1951年に本学助手になられ、やがて教授として世界経済論の講座をご担当になって今日に至られました。

先生は、世界経済論の立場から日本社会の歴史と現状に迫る研究姿勢を、一貫してとってこられました。とくに歴史研究を重視されつつ国際環境における日本社会の立場の個別性を浮き彫りにされたことが、先生のご研究の最大の特徴とみなせましょう。先生のメキシコ・ドルのご研究、日本の金本位制成立および戦後沖縄の通貨のご研究は、国際通貨をめぐる主権国家の角逐に流れる論理を時代の世界経済的枠組みの中で整理されたものとして、国際経済学のみならず、日本経済史の分野においても不朽の業績として、いまなお高い評価を受けております。また近年、国際的労働力移動の問題がアカデミズムの関心を集めていますが、この分野におきましても先生は日本人移民の手堅い調査に基づく先駆的なご業績を残されました。今日の第三世界論の先駆けも、後進国開発研究として先生によってなされたものであります。

先生は、国際経済学会の常任理事としてわが国における斯学の研究の推進に尽力されたばかりでなく、内外の有為の研究者をじつに数多く育てられました。学生時代つねに先生の温かさ大きな包容力とによって青春の充実を覚えた、というのは先生の手で学界、実業界、官界に送り出された多くの卒業生の口から一致して語られているところです。

本学の行政面でも先生には多大の重責を担っていただきました。学部に嵐が吹き荒れた苦難の時に、学部長、評議員を勤められてさまざまな難問の解決に全身全霊でもってご努力いただいたことは、永く人びとの記憶にとどめられるでしょう。

京都大学経済学会は、先生の永年にわたるご功績とご業績にたいして、心からの敬意と感謝の気持ちをこめて、ここに先生のご退官の記念号を編纂いたしました。先生には、今後ともご健康を維持され、わたしどもをなおご指導くださいますようお願いしつつ、以上をもって、このささやかな記念号を先生に献げるに際しての挨拶といたします。

1988年9月10日

京都大学経済学部長 尾崎芳治